

五戸・ひばり野西高

寮とグラウンドの 外観イメージ公表

旧青森県立五戸高跡地に2027年4月開校する八戸学院ひばり野西高について、五戸町と学校法人光星学院(八戸市)は27日、新設する寮と多目的グラウンドの外観イメージを公表した。法人は初代校長に元県立十和田西高校長の山口吉彦氏(64)、副校長に元県立八戸西高教頭の加藤聡氏(61)を予定していることも発表。募集定員は80人とした。

校長に山口氏(元十和田西高校長)起用へ



新たに整備する寮のイメージ(光星学院提供)



多目的グラウンドのイメージ(五戸町提供)



旧五戸高建物の無償譲渡に関する協定書に署名した若宮佳一町長(左)と法官新一理事長=27日、五戸町

寮は法人が建設する。木造2階建て延べ床面積688平方メートル。最大92人を収容できる。

多目的グラウンドは町が整備。旧五戸高野球場を改修し、1万6千平方メートルに人工芝や照明、防球ネットなどを設ける。

山口氏は現在、法人事務局参与。加藤氏は法人事務局参与で青森陸上競技協会副会長も務める。

開校に向けた動きでは7月に町内でカリキュラムの説明会を行う考えも説明した。

同日、町内で開いた会見前には旧五戸高の建物を町から法人に無償譲渡する契約と、教育や町づくり、スポーツ振興などに関する包括連携協定を締結した。無償譲渡によって法人は公的な補助金を活用した校舎の整備などが進めやすくなる。

法官新一理事長は「快適な教育環境を提供できる。地域に根ざした学校づくりを進めていきたい」、若宮佳一町長は「高校は地域活性化の中心的存在。引き続き最大限の支援をしていきたい」とそれぞれ語った。